表~6.8.2(5) 改変区域内において確認された重要な種の分布及び生育状況に基づく変化の程度の検討(その4)

No.	分 類	国外、国内	1、沖縄県 分布状況		石垣島内における生育状況		注6 現空港予定地関連調査			指定及び選定状況					
		•	注1	注2	注3	注4	注5	改変区域内での確認			法的 規制	法的 その他 規制			
	目 科	種	国外	国内	沖縄県	石垣島内	状況ランク	での確認 ・ 予定地 ・ 予定地 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	合計	重要な種の分布及び生育状況の変化の程度	注7 天然記念物	第 2	注9注10 第 植物群	環境	
20	70	アコウネッタイラン	台、比	_	П	広範に分布するが、個体数は極めて少ないものと推定される。 [環境庁RDB]全国4457メッシュ中、現存するのは1メッシュで数 個体、3メッシュで数十個体、総計約100個体と推定される。 [沖縄県RDB]沖縄島では数ヶ所、石垣島では2ヶ所で確認 されているが、個体数は少ない。	Α	13 10	23	石垣島内の個体数は極めて少ないものと推定され、また、調査範囲内の確認個体のうち造成工事により半数が消失することから、事業実施区域周辺の個体群が存続できないおそれがあるものと考えられる。				I B	危急

注1)分布状况(国外)

中:中国 中南:中国南部 台:台湾 朝:朝鮮半島 露:ロシア 印:インド 確:オーストラリア 東南:東南アジア 印支:インドシナ 比:フィリビン 熱帯帯:熱帯アジア 阿:アフリカ - 本阿:南アフリカ

注2) 分布状況(国内)

北:北海道 本:本州 伊豆:伊豆酥鳥 小笠:小笠原酥鳥 四:四国 九:九州 对:对馬 老:老岐 五島:五島列島 種:種子島 屋:屋久島 \功疗:\为疗列島 奄美:老 美豬島 老:奄美大島 請:蔣島 喜:喜界島 徳:徳之島 神永:神永良部島 宝:宝島 悪:憑石島

注3) 分布状況(沖縄県)・・・下記島嶼は以下の省略名で表記する

沖:沖縄本島 伊平:伊平屋島 伊是:伊是名島 渡嘉:茂嘉敷島 座:座間珠島 羨名:渡名喜島 栗:栗園島 久:久米島 宮:宮古島 尹:伊良部島 下:下地島 多:多 良間島 石:石堰島 西:西表島 与:与那閨島 波:波照間島 大東:大東島 北大:北大東島 南大:南大東島 念:魚釣島 阿嘉:阿嘉島

かお 近隣の複数県軸に分布がわたる場合 以下の表記とする

沖號:沖縄賭島 慶話:慶良閒諸島 先議:先島諸島 八話:八重山諸島 大話:大東諸島 尖踏:尖閣諸島

- 注4) 石垣島内の資源量について・・・知見は詳細に記述するが、分布や個体数の定性的表現は以下の表記とする。
 - (分布)広範:概ね全域に分布、局所的:生育地が限定、局部的:生育地がきわめて限定

(個体数)多い・普通・少ない・きわめて少ない・点在

なお、メッシュとは、国地理院の2万5000分の1地形図を基本とし、島部などについて微修正を加えたものであり、国土を計4457メッシュに分割したものである。

- 注5) 石垣島内の生育状況ランク
 - Aランク:分布や個体数が限られ、特に保護の必要性が認められる種(分布・個体数双方が少ない種や局部性種、個体数の極めて少ない種)
 - Bランク:分布・個体数の片方が限られるもしくは少ない種。また分布や個体数の双方がやや限られる種。法的規制種、分布や個体数情報が不明であり
 - 念のため保全に努める必要性の認められる種
 - Cランク:その他の貴重種
- 注6) 境空港予定地関連調査 現地調査において、調査員が確認した個体数、生育状況を示す。

- ・「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 ~レットデータブック- 植物 【(維管束植物) (2000年 環境庁)
- ・「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物―レットラータおきなわ―」(1996年 沖縄県)
- ·「琉球植物目録」(初島住彦・天野鉄夫 1994年 沖縄生物学会)
- ・「琉球列島維管束植物集覧」(島袋数一 1990年 ひるぎ社)
- ・「ヤウ/情報箱 レッドデータブランツ」(矢原管 2004年 山と渓谷社) ・「平成9年度 新石垣空港(宮良地区)環境影響予測評価委託業務報告書」(沖縄県 1998年)
- ·「平成13年度 新石垣空港環境現況調査委託業務報告書 (沖縄県 2002年)
- 「平成14年度 新石垣空港環境現況調査委託業務(その2)報告書」(沖縄県 2003年)

注7)天然記念物:「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)

- 国→国指定天然記念物 県→県指定天然配念物 市→石垣市指定天然記念物
- 注8) 第2回:「第2回自然環境保全基礎調査(緑の国勢調査)」(昭和55年 環境庁)での選定料客
- 注9) 第3回: 「第3回自然環境保全基礎調査(級の国勢調査) 特定植物群落調査報告書

注10) 植物群: 「植物群落レッドデータ・ブック」(1996年(財) 日本保護協会(NACS-J)、(財) 世界自然保護基金日本委員会(WWF Japan))

- 注11) 環境省:「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 -レットデータブッケー 植物 I (維管束植物)」(2000年 環境庁)
- IA →絶滅をは、IA類(絶滅の危機に頼している種・ごく近い将来における野生での絶滅の危険性があって高いもの)
 IB →絶滅危惧、IA類(絶滅の危機に頼している種・IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの)
- II一絵談所慎且類 総議の危険が増大している種現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類 (のランクに移行することが確実と考えられるもの)
- 準→準絶滅危惧(存続基盤が脆弱な種-現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として
- 上位ランクに移行する要素を有するもの)
- 注12) 沖縄県:「沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物―レット゚データおきなわ―」(1996年 沖縄県)
- 危惧→絶滅危惧種(絶滅の危機に瀕しているもの)
- 危急→危急種(絶滅の危機が増大しているもの)
- 希少→希少種(現在のところ「絶滅危惧種」にも「危急種」にも該当しないが、生育条件の変化によって容易に上位のランクに
- 移行するような要素(脆弱性)を有するもの)